

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 13 日現在

機関番号：32643

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2015

課題番号：25370232

研究課題名(和文) 文楽式人形操法と浄瑠璃との関係に関する総合的研究

研究課題名(英文) Comprehensive Study on the relationship between Bunraku-style puppet and Joruri

研究代表者

細田 明宏 (Hosoda, Akihiro)

帝京大学・文学部・准教授

研究者番号：20412801

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,700,000円

研究成果の概要(和文)：代表者および分担者は、単独で、あるいは共同で調査および研究活動をおこなった。主な調査としては、人形浄瑠璃の演者をはじめとする実演家に対するインタビュー調査や人形浄瑠璃上演の実態調査があげられる。研究においては、浄瑠璃と人形操りそれぞれについてテーマが設定された。また心理学実験にもとづく共同研究もおこなわれた。それらの結果は学術論文や学会発表、共著書のかたちで発表された。

研究成果の概要(英文)：A representative and team members were subjected to investigation and research activities alone, or jointly. The main investigations were interview investigations for the performers. We have studied each puppet and Joruri (narrative). Joint research based on psychology experiment was also carried out. The results were published as academic papers and conference presentations.

研究分野：人形浄瑠璃

キーワード：語り 人形操り 浄瑠璃 感情表現 身体表現 口伝 口頭伝承

1. 研究開始当初の背景

これまでの人形浄瑠璃についての研究は、各分野の個別のアプローチによってなされており、それらの連携は十分ではない。そこで本研究ではさまざまな分野の研究者が分野を越えて議論することにより、人形浄瑠璃についての新たな研究基盤を構築することを目標とする。

2. 研究の目的

人形操法と浄瑠璃との関係について理解を深めることを目的とする。すなわち、様々な分野(口承文芸学、文楽研究、浄瑠璃史研究、メディア文化論、社会心理学)の研究者が連携して調査・研究を行い、その成果を世に問うことで、人形浄瑠璃研究に新たな視座をもたらして一般社会や学界に貢献するとともに、人形浄瑠璃研究に対する社会的な要求に応じようとするものである。

3. 研究の方法

(1) 次の から の調査をおこなう。

文楽座技芸員へのインタビュー調査

文楽以外の伝統人形芝居の調査および演者へのインタビュー調査

地方人形座公演の調査(ビデオ記録)および演者へのインタビュー調査

(2) 次の ~ のテーマに沿って研究をおこなう。

語りとしての浄瑠璃

口頭性に着目し、近代の語り芸と比較することで、語り芸としての特質を明らかにする。

人形操りのメカニズムの解明

文楽の三人遣い操法について、ズ(演者間の合図)のメカニズムを解明する。さらに文楽以外の人形芝居との比較により、三人遣い操法の特徴を明らかにする。

芸論の研究

各種芸論(近世期および現代)を分析することで、浄瑠璃と人形操りとに共通する芸術理念である「情」の内実を明らかにする。また人形操法が語りに与える影響について、浄瑠璃のテキストから明らかにする。

人形による感情表現の心理学的評価

文楽座技芸員による人形の感情表現が、観客にどのように伝わるのか、心理学実験にもとづき考察する。

4. 研究成果

代表者および分担者は、それぞれ各自のテーマにしたがって調査・研究活動をおこなった。また共同研究もおこなわれた。研究を遂行する際には、適宜研究会が開催され、議論が交わされた。その結果、次のような成果があげられた。

(1) はじめに調査についてまとめたい。

インタビュー調査。当初の予定通り、文楽座技芸員などの文楽関係者、および文楽以外の伝統人形芝居の演者を対象としてインタビュー調査をおこなった。またそれに加え、

異なるジャンルとの比較という目的で、宮内庁楽師に対してもインタビュー調査をおこなった。これは当初の予定にはなく、本研究課題に取り組むうちに生まれたテーマである。これらの成果は、論文等として発表された。

地方人形座の上演実態の調査。継続しておこなわれた。これらの成果は、論文等に生かされた。

東京国立近代美術館が所蔵する映像と音源について実地調査をおこなった。同館客員研究員の協力のもと、映画『大功記十段目尼ヶ崎の場』(1908年製作)の映像と、それに合わせて1962年に上演・収録された大蔵貢ほかの素浄瑠璃の音源を視聴したものである。語りと活動写真の関係について討議をおこなった。

(2) 次に研究成果については、テーマごとにまとめた。

語りとしての浄瑠璃。職業的語り手の稽古および口伝に注目した論文が執筆された。また近代に成立した語り芸である浪花節との比較研究も進められた。

人形操りのメカニズム解明。文楽式三人遣い操法における役割分担や相互の関係性について、文楽座技芸員へのインタビュー調査がおこなわれ、それに基づいた論文が発表された。

「情」や「性根」といった、浄瑠璃独自の概念の解明。研究会において議論が交わされ、その結果は共著論文に生かされた。

心理学実験に基づく、人形による感情表現の評価。共同研究としておこなわれた。実験は、数度にわたって研究会を開催し細かい条件や手順を決めた上で、実施した。その際得られたデータは、学生アルバイトを雇い入れて整理した。その結果を元に考察をおこない、共著論文として発表した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計8件)

細田明宏、義太夫節浄瑠璃における口伝と観客/聴客 語りの構造と「前受け(客受け)」、『比較日本文化研究』18、2016、49、65、査読有

大江朋子・細田明宏・後藤静夫、文楽人形と人間の顔から知覚される感情と特性：クラスター分析による分類および評定者の個人特性との関連性、『帝京大学文学部紀要日本文化学』47、2016、210、223、査読なし

真鍋昌賢、芸としての「漫訪」 1930年代における『主婦之友』と大辻司郎、『比較日本文化研究』18、2016、29、48、査読有

久堀裕朗、道頓堀の人形浄瑠璃興行に関する

る覚え書き 豊竹座・陸竹座の変遷について、『文学史研究』56、2016、140、158、査読なし

久堀裕朗、浄瑠璃『近江源氏先陣館』『太平頭髻飾』の構想 実録『厭蝕太平楽 記』との関係と両作の世界設定、『文学』16-4、2015、143、160、査読なし

後藤静夫、文楽の太夫、三味線に聞く 稽古・伝承の視点から、『芸能史研究』208、2015、44、57、査読なし

堀内隆裕・大江朋子、音楽聴取により生じる感情とBGMによるストレス緩和効果：4ジャンルの音楽を用いた比較、『帝京大学心理学紀要』19、2015、123、139、査読なし

小方信昭・大江朋子、子どもとの社会的相互作用が地域ボランティア活動員の精神的健康に与える影響：事前-事後調査の結果から、『帝京大学心理学紀要』9、2014、9、22、査読なし

〔学会発表〕(計8件)

Oe, T., Perception of emotions and traits in human and bunraku puppet faces: Are they related to perceiver's self-esteem, aggression, and empathy?, the 31st International Congress of Psychology, 2016年07月24日~2016年07月29日、PACIFICO YOKOHAMA(Nishi Ward, Yokohama)

大江朋子、身体が生み出す自他の認知：社会心理学の立場から、日本理論心理学会第60回大会、2014年09月28日、お茶の水女子大学(東京都文京区)

大江朋子、サーモグラフィーで探る身体温度と対人判断の関係、日本心理学会第78回大会、2014年09月10日 同志社大学(京都府京都市)

後藤静夫、文楽・太夫、三味線に聞く 稽古・伝承の視点から、芸能史研究会第51回大会、2014年06月01日、同志社女子大学(京都府京都市)

大江朋子、The relation between room temperature and perceived social warmth: I think they are warm if I go into a warm room but think they are cold if the room gets warmer., the Society for Personality and Social Psychology, 2014年02月13日~2014年02月15日、アメリカ合衆国テキサス州オースティン市

細田明宏、人形浄瑠璃文楽における襲名の芸術学的意義について、美学会全国大会、

2013年10月14日、東京芸術大学(東京都台東区)

真鍋昌賢、「民俗芸術」の可能性と限界、日本口承文芸学会、2013年06月02日、森下文化センター(東京都江東区)

細田明宏、人形浄瑠璃における襲名の意義について、演劇研究会例会、2013年05月25日、同志社大学(京都府京都市)

〔図書〕(計2件)

丸橋良雄(共編著)・伊藤佳世子(共編著)、佐川昭子(共編著)・Jennifer Louise Teeter(共編著)・細田明宏、英光社、『比較文化：グローバルコミュニケーション』、2015、89、100

丸橋良雄(共編著)・ルッケル瀬本阿矢(共編著)・西美都子(共編著)・細田明宏、英光社、『比較文化への視点』、2013、146、154

〔産業財産権〕
出願状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等
なし

6. 研究組織

(1) 研究代表者

細田 明宏(Hosoda Akihiro)
帝京大学文学部、准教授
研究者番号：20412801

(2) 研究分担者

大江 朋子(Oe Tomoko)
帝京大学文学部准教授
研究者番号：30422372

久堀 裕朗(Kubori Hiroaki)

大阪市立大学文学研究科准教授
研究者番号：50335402

真鍋 昌賢 (Manabe Masayoshi)
北九州市立大学文学部准教授
研究者番号：50346152

後藤 静夫 (Gotou Shizuo)
京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター
一名誉教授
研究者番号：50381926

(3)連携研究者
なし